

皆様

本日、WHC 42会「春の宴（うたげ）」を開催しました。
参加者はこれまで最多の18人。以下そのご報告です。

WHC卒業後39年を経た2006年に再会（再開）した42会は、その後毎年春に開催してきましたが、昨年は、あの東日本大震災もあって休会としたため、2年ぶりの開催となりました。

折からの強風で電車が止まって遅れる人も出る中、定刻の午前11時半に文京区・六義園の正門前に集合した12人で園内へ入りました。

六義園は、ご存じ犬公方・徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保が下屋敷として造園した回遊式築山泉水庭園で、造園当時から小石川後樂園とともに江戸の二大庭園に数えられていた名園です。

「六義園」の名称は、「中国の詩の分類法（詩の六義（むくさ））にならった古今集の序にある和歌の分類の六体（そえ歌、かぞえ歌、なぞらえ歌、たとえ歌、ただごと歌、いわい歌）に由来した」といわれても、なんだかよくわかりません。

今年は例年になく寒い冬がいつまでも続いて、桜の開花が遅れていましたが、ここ数日の暖かさでこの日は都内の標準木である靖国神社のソメイヨシノの開花宣言が出されました。六義園のシンボルであるシダレザクラの大木も入口に「咲き始め」と大きく書かれており、確かに数輪が開いていました。もう1週間もすると、滝の流れ落ちるようなすばらしい姿を見せることでしょう。



一方で、早春の花であるツバキやサンシュユ、ウメも咲き残っていました。梅前線の北上を追いかける桜前線は、いつもの年だと東北地方北部で追いつく、つまり梅と桜が同時に見頃を迎えるといいますが、春の訪れが遅い今年には六義園でも追いついたようです。

週末とあって団体客も多く、彼らに混じるようにして、吹上茶屋やら藤代峠やら何となくハイキングっぽい地名もある園内を巡っているうち、ポツリポツリと細かい雨粒が落ち始めましたので、それに促されるように、六義園至近にある本日の宴会場・高級イタメシ屋「トラットリア・イタリア」に入りました。

それまでに電車遅延組と会場直行組も間であって、総勢18人での大宴会開始。恒例どおり42会産みの母・まとうの開会宣言、次いで週2の山ガール・菅原の発声で乾杯の後、しばし歓談。

喉をうるおす飲み物と美味しい料理に一息ついたところで、今年のOB夏合宿のプランが発表され、これまた恒例どおり順繰りの近況報告へと進みました。

今回特記すべきは、42会6回目にして初めて「昔の女の子」5人が勢ぞろいしたこと。年齢を感じさせない（これ以上歳をとらない？）元気のいい話を次々と披露してくれました。

勿論、昔の男の子も負けじと元気に山や旅、さらには仕事の話をする人もいましたが、私を含め健康ではない話も飛び出しました。それはそれで1月の会合の後、先輩のNさんが書いておられたように「癒えて元気取り戻した方の語る病の話は一種の成功体験談」として興味を呼んだようでした。

18人という人数、誰かが「現役時代でもこれだけのメンバーが一堂に会したことはない」と言っていましたが、確かにそのとおりかもしれません。窓越しの激しい風雨、通行人が傘を傾けて必死に歩いている様子を見やりながら、それらとまったく関係のない室内はどんどん熱気が高まっていきました。

約2時間の宴会タイムからおしゃべりタイムに移り、席を変え、相手を変え、話題を変え、時を忘れ、話したことをすぐ忘れ、たちまちのうちに2時間が経過。証拠の集合写真を撮り、本日の会場の手配一切をしてくれた布施の一本締めにより終了。再会を約して会場を後にする頃には、雨はすっかり上がっていました。

六義園 桜さいたの 18人
(咲いた・最多)



後列左から…布施、皆川、徳渕、大竹、小関（唐木）、まとう（日向寺）、山口（赤坂）、
佐々木、萩原（柳）、荒木、植村、西海、田上
前列左から…小坂、新妻、菅原（猪間）、花田、五十嵐